

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 4日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21320036

研究課題名（和文）3Dデジタルデータをもとにした快慶の特徴基準の作成—快慶とその周辺の形状伝播

研究課題名（英文）Examination on the standard feature about Kaikei style applying 3D digital data- Kaikei himself and sculptors under influence

研究代表者

籾内 直樹(佐斗司) (YABUUCHI NAOKI (SATOSHI))

東京芸術大学・大学院美術研究科・教授

研究者番号：10376931

研究成果の概要（和文）：

仏師快慶の作と判明している仏像彫刻や平安時代～鎌倉時代の作例を中心に 3D計測調査を行い、快慶の作風にみられる特徴を 3Dデータ上から解析した。その結果、快慶の特徴といえる頭部の断面曲線を抽出することが出来た。またこの 3Dデータによる断面曲線から、平安時代後期の仏師定朝から快慶以外の鎌倉時代前期の仏師運慶、さらには末流の仏師にまで、鼻から頬の曲線が一致し、非常に正確に伝播していることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to perform 3D measurement of the Buddha statue produced by Kaikei (Buddhist sculptor) or other sculptor from the Heian period to the Kamakura period, and to analyze the feature of the style of Kaikei. As a result, the cross-section line of the head from 3D data as the style of Kaikei is appeared well was able to be extracted.

Moreover, these cross-sectional lines showed the same tendency, it became clear that the curve of a nose or a cheek was correctly handed down from Jocho (Buddhist sculptor) in the late Heian period to Unkei (Buddhist sculptor) in the first half of the Kamakura period or other sculptor in the following time.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	8,200,000	2,460,000	10,660,000
2010年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸術諸学

1. 研究開始当初の背景

現在、銘文等により判明している快慶作品は二十数点におよび、わが国の仏像彫刻史においてその情報量は際立って多いといえる。それゆえ仏師快慶とその周辺の造像については、既に多くの研究がなされてきた。そして銘文が発見されない作例は、衣文や天冠台の形状、耳の彫法などを目視によって比較する研究がなされてきた。

当研究室では、2005年度に行なった浄瑠璃寺灌頂堂大日如来坐像の保存修復事業の中で、類似する作例と比較しながら、制作年代および作者同定を試みた際、快慶作例2点に共通する造形の特徴を発見した。それは3Dデジタルデータで得られた水平方向の頭部断面図を年代・作者ともに判明している基準作例との比較によるものであった。当時は、この特徴が快慶独自のものであると断定するには比較対象が不足していたため、断定は出来なかったが、あたらしい研究方法の糸口になることを大いに期待させるものであった。

2. 研究の目的

本研究では、さらにデータの集積を行ない解析する事で、快慶作品における造形的特徴を明らかにし、作者を推測する客観的方法のひとつを確立する事を目的とするものである。

3. 研究の方法

すでに当研究室では、2007年当時までに定朝作品をはじめとする平安時代後期の基準作例と、運慶や快慶の作品を中心とする鎌倉盛期ともいべき時期の作例9体の3D計測を行っていた。そこでこの時期の作例に絞って引き続き計測事業を行い、そのなかで纏められた快慶作品の一連の流れを定規として、他の作品群の位置関係、作風の変遷、時代、工房による特徴などの分析を試みた。

4. 研究成果

本研究で得られた資料と、とこれまで当研究室で集積した平安後期～鎌倉期にかけての3Dデータの比較検証を試みた。

まず、慶派の祖・奈良仏師作の可能性が非常に高い奈良県・長岳寺阿弥陀如来坐像と、他の如来・菩薩形の頭部における起伏の変化を、正中位置の断面線を用いて比較検証した(図1)。

すると、この約200年間(1053年～1254年)の様式変化と尊格の違いにもかかわらず、想

像以上に頭部概形の輪郭線(髻は別)は似通っていることが判明した。さらに面相部の詳細を見ると、長岳寺阿弥陀如来坐像は、快慶、運慶、康慶作例よりも、京都府・平等院阿弥陀如来坐像の断面線に近いことが判明した(図2)

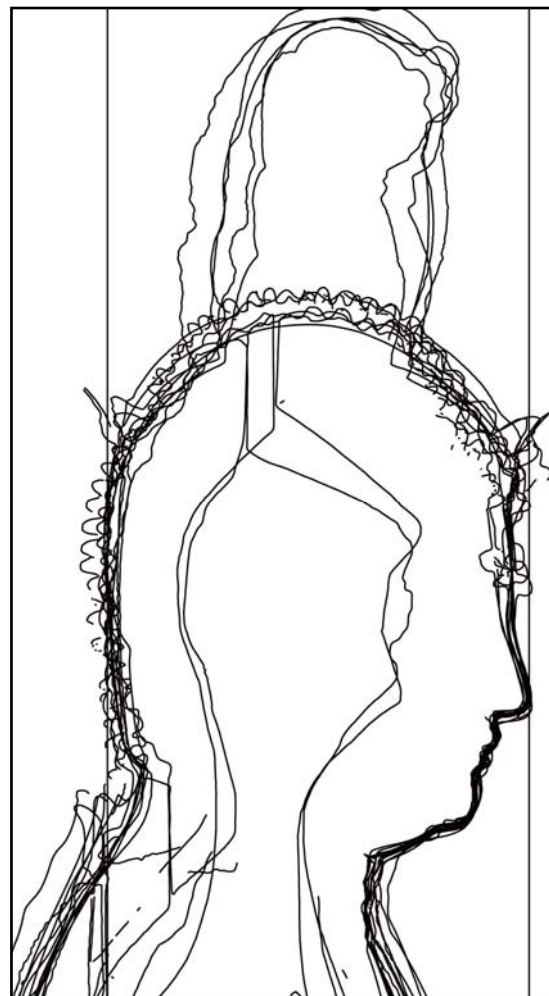


図1 3Dデータによる正中線断面統合図

【平等院阿弥陀如来坐像、長岳寺阿弥陀如来坐像、瑞林寺地藏菩薩坐像、浄瑠璃寺灌頂堂大日如来坐像、円成寺大日如来坐像、個人蔵大日如来坐像(旧東京国立博物館寄託)、東京芸術大学快慶作大日如来坐像、知恩寺快慶作阿弥陀如来立像、西方院快慶作阿弥陀如来立像、東大寺俊乗堂快慶作阿弥陀如来立像、石山寺快慶作大日如来坐像、個人所蔵阿弥陀如来立像(建長6年憲永作)、善光寺阿弥陀如来立像】

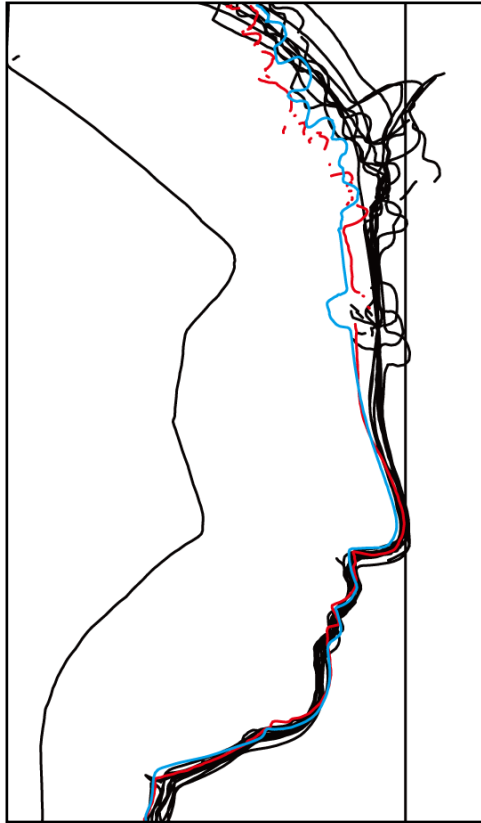


図2 正中線・断面曲線集積図

(面相部周辺拡大)

青：平等院阿弥陀如来坐像

赤：長岳寺阿弥陀如来坐像

黒：その他

本研究による調査では、時代的特徴の客観性を高めるため、平安初期作例や、まったく尊容の異なる作例の3D計測・比較も行った。

その結果、3尺に纏められた慶派作品比率と比較的法量が近い道明寺十一面観音立像(平安初期)では一線を画していることを再認識した。また尊格の異なる願成就院毘沙門天立像とも同様に異なっていた。よって、平安時代後期以前と尊格が明らかに異なる像種には、頭部断面線は一致しないことが再確認された。

この面相部におけるわずかな差異が諸像の特徴を生み出していることから、比較する断面曲線を目、鼻、口を通る水平線での断面曲線(おもに面相部)に限定し検証した。そして、すでに明らかとなっている東大寺俊乘堂阿弥陀如来立像のこめかみの下周辺を深く彫り込む特徴が、これまで計測を行った平安時代後期～鎌倉期作例(慶派作例、長岳寺阿弥陀如来、平等院阿弥陀如来など)と、どのように類似するのか、解析を行った(図3・4・5)。

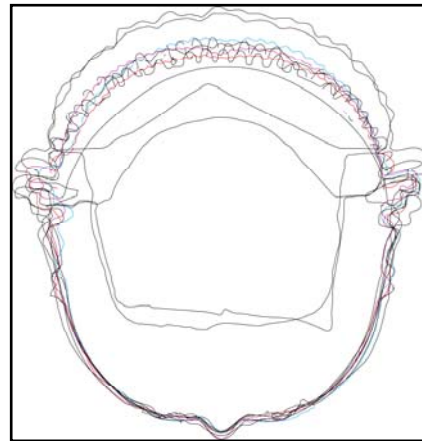


図3 目部水平方向・断面曲線集積図

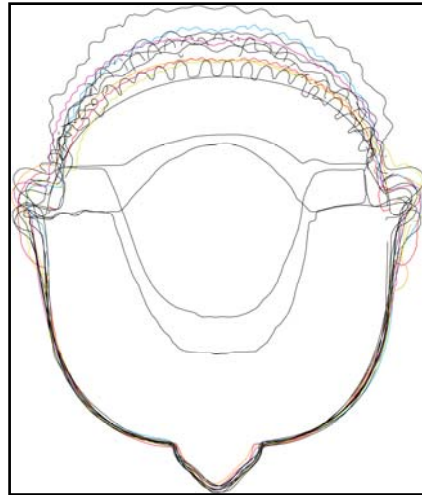


図4 鼻先部水平方向・断面曲線集積図

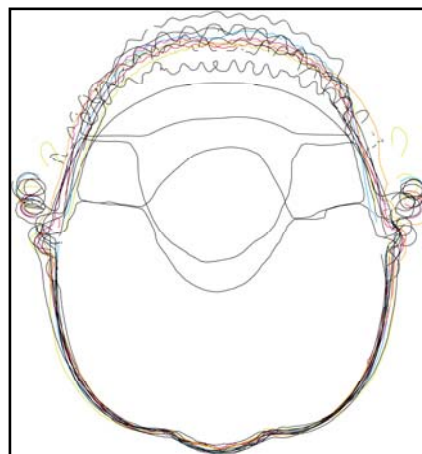


図5 口部水平方向・断面曲線集積図

すると、快慶作例及び快慶風作例 6 例には、この深い彫り込みが共通して見られ、特に鼻先から水平方向に描いた断面線曲線は、ほぼ一致するものとなり、明らかにその他の作例とは異なる曲線を示すものとなった(図 6・7)。よってこの「深い彫り込み」が、面相部における快慶らしさ、つまり快慶の造形的特徴の一因となっていたことが明示されることとなった。

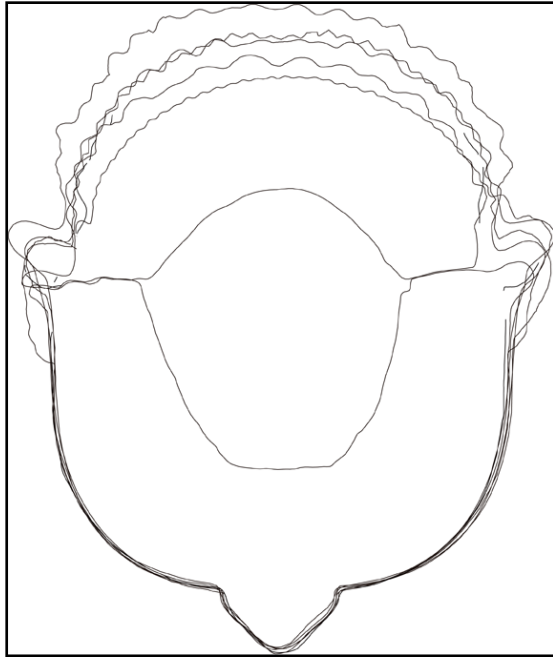


図6 鼻先水平方向断面曲線
快慶および快慶風 6 作例統合図

【東大寺俊乗堂阿弥陀如来立像、西方院阿弥陀如来立像、知恩寺阿弥陀如来立像、東京藝術大学大日如来坐像、石山寺大日如来坐像、善光寺阿弥陀如来坐像】

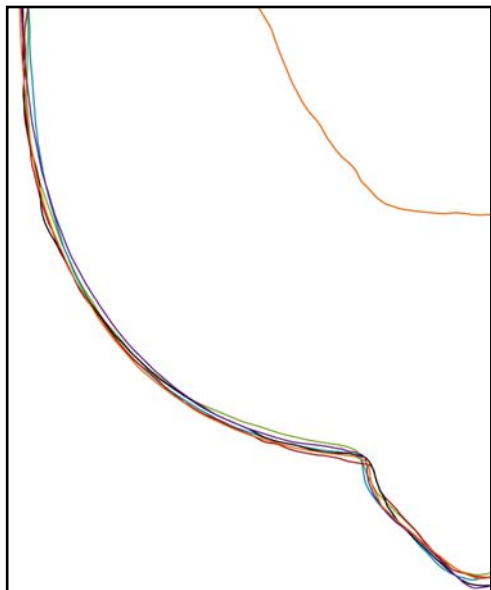


図7 図6拡大図(右頬～鼻先部分を作例ごとに色分け)

さらに特筆すべきことは、快慶作例及び快慶風作例 6 例を除いた平等院阿弥陀如来坐像から康慶、運慶、建長 6 年憲永作・個人所蔵阿弥陀如来立像までの、これら法量が全く異なる如来・菩薩形(坐像で像高約 2.8m の巨像から像高約 66cm の立像まで)の鼻先部水平方向・断面曲線(面相部)が、おおむね一致したことであった(図 8)。

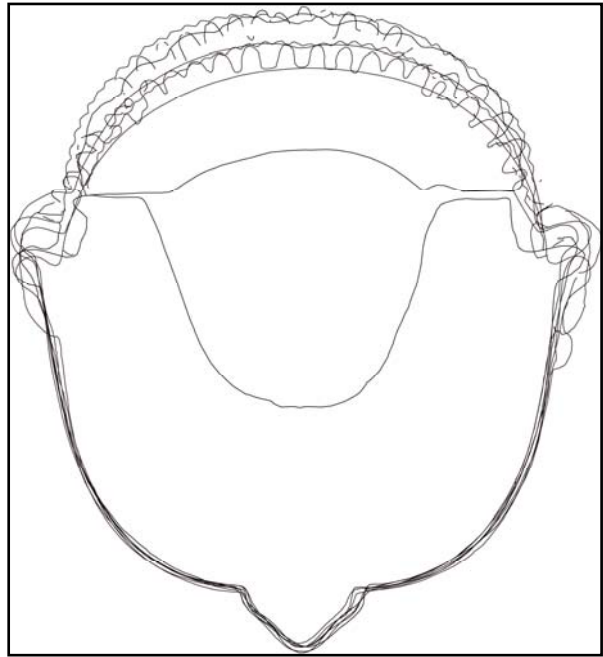


図8 鼻先水平方向断面曲線
定朝～鎌倉期慶派 7 作例統合図

【平等院阿弥陀如来坐像、長岳寺阿弥陀如来坐像、瑞林寺地藏菩薩坐像、浄瑠璃寺灌頂堂大日如来坐像、円成寺大日如来坐像、個人蔵大日如来坐像(旧東京国立博物館寄託)、個人所蔵阿弥陀如来立像(建長 6 年憲永作)】

以上のように、本研究では、如来・菩薩形における快慶的特徴のひとつを、断面曲線から見出すに至った。一方、本研究の過程では、東京国立博物館蔵菩薩立像(列品番号 C-20)にも、快慶・快慶風作例と似通った鼻先水平方向の断面曲線が現れた。同像は、善派の可能性を指摘されている像であり、善派は快慶の次世代の仏師である。これは、どのようなプロセスを経て快慶的特徴が伝播していったのかを類推する上で、重要な資料と成り得ることが予測された。また図 8 のように、定朝様と慶派(康慶→運慶～)の断面曲線にみられる一致も着目すべき事項である。今後のさらなるデータ集積と比較研究が望まれる。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

1. 藪内佐斗司「デジタル文化財情報の教育現場での活用」【一般財団法人デジタル文化財創出機構主催シンポジウム「文化情報の整備と活用 ～デジタル文化財が果たす役割と未来像 2012」最新事例/動向報告】2012年2月2日、東京都千代田区丸ビル7階丸の内・丸ビルホール。

2. 藪内佐斗司「彫刻文化財の3D デジタルデータを活用した教育・研究の紹介～東京芸術大学大学院文化財保存学における実例」【第14回図学国際会議(ICGG2010)】2010年8月6日、京都大学100年記念講堂。

[図書] (計2件)

1. 藪内佐斗司監修 東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室発行「年報2010」2011年、242P。

2. 藪内佐斗司監修 東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室発行「年報2009」2010年、324P。

[その他]

ホームページ等

<http://www.tokyogeidai-hozon.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藪内 佐斗司 (YABUUCHI SATOSHI)
東京芸術大学・大学院美術研究科・教授
研究者番号：10376931

(2) 研究分担者

副島 弘道 (SOEJIMA HIROMICHI)
大正大学・文学部・教授
研究者番号：20216576
山本 勉 (YAMAMOTO TSUTOMU)
清泉女子大学・文学部・教授
研究者番号：00150037
武笠 朗 (MUKASA AKIRA)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号：30219844
三浦 康道 (MIURA YASUMICHI)
東京芸術大学・大学院美術研究科・非常勤講師(H21→H22)
研究者番号：10466998
仲 裕次郎 (NAKA YUJIROU)
東京芸術大学・大学院美術研究科・非常勤講師
研究者番号：10466997
高宮 洋子 (TAKAMIYA YOUKO)

玉川大学・芸術学部・非常勤講師

研究者番号：10334492

菊池 敏正 (KIKUCHI TOSHIMASA)

東京大学・総合研究博物館・特任助教

研究者番号：10516769

藤曲 隆哉 (FFUJIMAGARI TAKAYA)

東京芸術大学・大学院美術研究科・教育研究助手(→H21)

研究者番号：20466999

※研究協力者

山田 修 (YAMADA OSAMU)

東京芸術大学・大学院美術研究科・非常勤講師

鈴木 篤 (SUZUKI ATSUSHI)

東京芸術大学・大学院美術研究科・教育研究助手

吉水 快聞 (YOSHIMIZU KAIMON)

東京芸術大学・大学院美術研究科・博士後期課程修了